

奄美図書館だより

平成25年9月1日発行
第267号 (9月号)
鹿児島県立奄美図書館

〒894-0016 奄美市名瀬古田町1-1 TEL0997-52-0244

HP address : <http://www.library.pref.kagoshima.jp/amami/>

E-mail address : ama-lib@pref.kagoshima.lg.jp

第22回読書指導者等研修会

7月26日(金)、大和村中央公民館において、鹿児島県図書館協会奄美支部主催の「第22回読書指導者等研修会」を開催しました。大島地区内の保育所・幼稚園職員、小・中・高等学校教諭・保護者、親子読書会、公立図書館(室)職員等を対象として、子どもの読書活動を推進するための知識・技能を習得するとともに、読書活動の在り方について研修を深めるための会です。昨年度会場の喜界町から各島持ち回りで開催することになり、今年度は約80人の方が参加されました。

午前中は、「子どもたちの心に届く読み聞かせ」と題して読書指導法研修を行いました。ことば遊び、詩、読み聞かせなどの様々な方法を紹介し、参加者の方には子どもになった気持ちで楽しんでもらいました。読書することにより、豊かな感性が養われ、想像力・思考力・判断力、コミュニケーション能力の育成につながることを、読み聞かせで子どもたちとの心のふれあいができることを実感してもらえたと感じています。また、午後からは、「子どもたちとお話や本との幸せな出会い!」というテーマで、「子どもと読書のコーディネーター&ストーリーテラー」の佐藤京子さんに、実演を交えながら講演していただきました。「子どもたちは、言葉を食べて育つ」「本をととした共感によって、子どもたちは家族から愛されていることに気づき、自分を大切にすることを育てることができる」と、本のもつ力のすばらしさについて話されました。また、「どんなに本が嫌いな子どもでも、出会いがあれば読み出す子どももたくさんいる。すべての子どもたちが本と出会える場ができれば」という話からは、家庭・地域・学校における読書活動推進のあり方についても考えさせられました。

来年度は徳之島で開催されます。さらに充実した研修会にしていきたいと考えています。



第10回ネリヤカナヤ創作童話コンクール ～奄美の子どもたちの豊かな心を感じる～

第10回ネリヤカナヤ創作童話コンクールの応募締切が迫ってきました。奄美の豊かな風土・自然に抱かれて育った子どもたちの夢が広がる作品の応募をお待ちしています。

実施要項・第9回までの全作品は、鹿児島県立奄美図書館で、また、実施要項・入賞作品は、奄美図書館のホームページでもご覧いただけます。

〔応募締切〕平成25年9月12日(木)



奄美先人の知恵 与路島のサンゴの石垣

瀬戸内町与路島は、加計呂麻島の南に位置し、島の家々ではサンゴ石を積み上げた外壁が数多く残っています。サンゴの石垣は情緒があり、とても魅力のある与路島ならではの風景となっています。

その石垣は、境界線の役割として家の周りに積み上げていましたが、台風などの強い風を防ぎ、夏は隙間から涼しい風も運んでくれる、島の暮らしに合ったものでした。

石垣に利用するサンゴ石の多くは、死んでしまっただけで白化したもので、その採集は、集落総出の「ユイワク」と呼ばれる共同作業として、10年に1回位のペースで行っていました。しかし、人口の減少、コンクリートのブロック塀の普及などから、行われなくなりました。与路島でも、強度が高く、台風のたびに石を積み直す手間もなく、ハブの侵入や棲みかとなることを未然に防げるブロック塀に変える家が多く見られました。

現在では、ブロックをつないでいた内部の鉄骨が潮風によりむき出しとなったり、曲がったりしてきたため、サンゴの石垣のほうが耐久性にも優れているとの認識が広がり、その価値が見直されました。

そして、平成21年には、国土交通省が一般公募した「島の宝100景」に、「涼を呼ぶサンゴの石垣」として選ばれました。「島の宝」「日本の宝」、さらには、世界に誇るべき景観として私たちが大切にすべきものについてもう一度考え、また、奄美の自然と暮らしの中で先人が築いてきた知恵を次の世代に引き継ぐために、奄美のことについて書かれた書籍に触れてみてはどうでしょうか。

「進学支援コーナー」をご利用ください!

2階一般閲覧室にある「進学支援コーナー」では、進路選択の参考にしてもらうため、平成26年度大学・短大・専門学校等の入学案内・募集要項を展示・提供しています。ぜひご利用ください。

資料を提供している学校一覧 (8/29現在)

大学

鹿児島大学、鹿児島国際大学、鹿児島純心女子大学、沖縄大学、沖縄国際大学、名城大学、沖縄県立看護大学

短期大学

鹿児島県立短期大学、第一幼児教育短期大学、鹿児島女子短期大学、鹿児島純心女子短期大学、

専修学校等

奄美看護福祉専門学校、奄美情報処理専門学校、鹿児島県医療法人協会立看護専門学校、鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校、鹿屋市立鹿屋看護専門学校、鹿児島高等看護学院、公益社団法人出水郡医師会立阿久根市民病院附属看護学校、鹿児島第一医療リハビリ専門学校、鹿児島医療福祉専門学校、鹿児島医療事務専門学校、鹿児島医療技術専門学校、南九州医療秘書福祉専門学校、鹿児島県理美容美容専門学校、鹿児島公務員専修学校、鹿児島キャリアデザイン専門学校、今村学園ライセンスアカデミー、沖縄ブライダル・モード学園、鹿児島工学院専門学校、甲南ビジネス専門学校、県立宮之城高等技術専門学校、鹿児島建設専門学校、鹿児島情報ビジネス専門学校、鹿屋ビジネス専門学校、鹿児島外語学院、神村学園専修学校、鹿児島動物専門学校、原田学園キャリアデザイン専門学校、沖縄中央学園

お知らせ

参加して
みませんか!



あまみならでは学舎 5

○日時 平成25年9月21日(土) 14:00~15:30

○場所 奄美図書館 4階研修室

○内容 演題 「島の料理」

講師 郷土料理研究家 泉 和子 氏

※ お問い合わせは、奄美図書館まで。

〒894-0016 鹿児島県奄美市名瀬古田町1-1

TEL 0997-52-0244 FAX 0997-52-9634

9月の行事カレンダー



月	日	曜	行事・催し
9	2	月	休館
	4	水	おはなしの森 15:30～
	7	土	おはなしさんぽ 10:30～
	9	月	休館
	11	水	おはなしの森 15:30～
	12	木	青嶺短歌会 13:00～17:00 ネリヤカナヤ創作童話コンクール募集締切
	13	金	育児サークル「こっちむいて」10:00～
	14	土	大島地区小学校国語教育研究会 9:00～
	17	火	休館
	18	水	おはなしの森 15:30～
	21	土	あまみならでは学舎⑤ あまみ子どもライブラリー 10:00～ 読書会「島にて」10:00～12:00
	22	日	奄美郷土研究会 14:00～16:30
	24	火	休館
	25	水	休館（整理研修）
	30	月	休館
10	5	土	あまみならでは学舎⑥
	12	土	読み聞かせボランティア養成講座
	25	金	ネリヤカナヤ創作童話コンクール審査結果発表
	26	土	郷土コーナー企画展（～1/30）
	27	日	読書週間（～11/9）

10月の休館日予告



7日(月)・15日(火)・21日(月)・

25日(金)・28日(月)

今月の新着図書コーナー

読書の風を
奄美から

児童

くじらのあかちゃんおおきなあれ

神沢 利子 福音館書店

ヤダヤダかめん

あきやま ただし 金の星社

しろくまちゃんばんかいに

わかやま けん こぐま社

かあちゃん取扱説明書

いとう みく 童心社

海のひみつ

ステイプ・パーカー 小学館

もしも宇宙でくらしたら

山本 省三 WAVE 出版

その他84冊

郷土関係

植物あそび図鑑

川原 勝征 南方新社

花々

原田 マハ 宝島社

その他13冊

おすすめの本

海辺の生と死

島尾 ミホ 中央公論新社

昭和49年に創樹社から刊行され、翌年に第15回田村俊子賞を受賞した作品です。今回、文庫本として復刊されました。幼い日、夜ごと、子守歌のように母がきかせてくれた奄美の昔話。南の離れ島の暮らしや風物。慕わしい父と母のこと。記憶の奥に刻まれた幼い時の思い出と特攻隊長として島に駐屯した夫、島尾敏雄との出会いなどをひたむきな眼差しで、心のままに綴られています。息子の島尾信三さんの写真を使用した新カバーに、梯久美子さんの解説がついています。

一般

20歳からの人生の考え方

外山 滋比古 海竜社

自然災害からいのちを守る科学

川手 新一 岩波書店

LINE 100%活用ガイド

リンクアップ 技術評論社

その他192冊

小説・随筆

色

花村 萬月 文藝春秋

来春まで

諸田 玲子 新潮社

ホテルローヤル

桜木 紫乃 集英社

歳月がくれるもの

田辺 聖子 世界文化社

その他23冊

進学・ビジネス支援

個人事業のはじめ方がすぐわかる本

ヒューマン・プライム 成美堂出版

その他9冊

島はぼくらと

辻村 深月 講談社

物語の舞台は、瀬戸内海に浮かぶ小さな架空の島「冴島」。母と祖母の女三代で暮らす、伸びやかな少女朱里。美人で気が強く、どこか醒めた網元の一人娘衣花。父の自然愛好的な生活スタイルに巻き込まれ、東京から連れてこられた源樹。熱心な演劇部員なのに、思うように練習に出られない新。島に高校がないため、四人はフェリーで本土に通っています。島を旅立つ人、送り出す人、新たに島を故郷とする人。島を出て行く季節を迎えた男女四人の眩しい故郷のそれぞれの思いが描かれた温かい作品となっています。